

知的障害教育における学習評価から授業改善につなげる フレームワークに関する研究（令和4～5年度）

県総合教育センター特別支援教育部

1 研究の概要

県総合教育センター特別支援教育部では、令和2年度から2年計画で、「知的障害教育における各教科等の指導目標の設定及び学習評価を行うためのツールの開発」をテーマに研究に取り組んだ。研究の成果として、開発したツールの活用により、知的障害教育に携わる教員が、学習指導要領に則って、児童生徒の実態から学習評価までを行うことができるようになったことなどが挙げられる。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の総則では、学習評価の充実として「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること」の必要性が明示されている。

これらを踏まえ、本年度から2年計画で、知的障害教育における学習評価から授業改善につなげるフレームワークに関する研究に取り組むこととした。

2 質問紙調査の実施と結果の分析

今年度は、知的障害教育における教育課程に関する課題を明らかにするとともに、フレームワーク開発のための基礎資料とするため、質問紙調査を実施した。

調査の分析結果から、単元（題材）における学習状況等の評価につながる記録、指導と評価の一体化、評価に基づく課題等の明確化などが可能となるフレームワークを開発することが学習評価の充実と授業改善に有効であることが分かった。

3 フレームワーク（試案）の開発

今年度は、フレームワーク（試案）を作成し、調査研究協力校における活用を通して、必要な改善を行った。フレームワーク（試案）概要は、次のとおりである。

シート	概要
1	○各教科等における児童生徒一人一人の実態を把握
2	○単元における個々の実態、目標、評価規準（基準）を設定 ○学習評価・授業者の振り返り
3	○単元における学習集団の実態、目標、評価規準を設定 ○学習状況の評価、授業者の振り返り、課題・改善を要する点
4	○単元全体における学習状況の評価、授業者の振り返り、課題・改善を要する点 →学習評価から授業改善へ

※シート1を基にシート2（個別）、シート3（学習集団）を往来しながら学習評価し、シート4でまとめた課題等を踏まえ、授業改善につなげる。

4 次年度に向けて

フレームワークを活用することにより、3観点に基づいた具体的な評価と授業の改善につながり、より効果的な指導ができるようになる考える。

次年度は、調査研究協力校におけるフレームワークの活用等を通して、必要な改善を行うとともに有効性を検証し、県総合教育センターWebサイトにて公開する予定である。